

南関東ブロック会議（11月7日（木） 千葉県・京成ホテルミラマーレ）

参加者は約170名。はじめに矢部明千葉県副会長の開会の言葉に続き、秋葉英一千葉県会長が開催県を代表してあいさつを述べ、続いて、岡本比呂志全専各連南関東ブロック長、小林光俊全専各連会長があいさつを述べた。森田健作千葉県知事の来賓祝辞の後、来賓・行政関係者・全専各連・各協会会長等の紹介が行われ、本会議に入った。

はじめに「文部科学省報告」として、文部科学省専修学校教育振興室の圓入由美室長が、配付資料「専修学校・各種学校をめぐる最近の動向について」「平成26年度専修学校概算要求」に基づき説明。閣議決定した教育振興基本計画による、キャリア教育・職業教育の重要性と期待の大きさを強調。専修学校の果たすべき役割について、質の保証・向上や学校評価への更なる取組みが必要であることを述べた。また、概算要求の中の「職業実践専門課程等を通じた質保証」「中核的専門人材の養成」「専修学校留学生に対する支援」「安心して学べる環境の実現に向けた修学支援」に関する趣旨及び意義等について解説し、専修学校への協力を呼びかけた。全専各連事務局からは、全専各連全体の活動状況、職業実践専門課程創設までの経緯・意義についての説明、概算要求に関連する報告が行われ、全専各連事業への協力要請が行われた。その後、各都県から行政報告が行われた。

休憩後、岡本南関東ブロック長、圓入室長、千葉大学普遍教育センター前田早苗教授をパネリストに迎え、関口正雄東京都副会長をコーディネーターに「職業実践専門課程と専修学校の質の保証」と題してパネルディスカッションが開かれた。冒頭、圓入室長が職業実践専門課程創設までの経緯・趣旨について解説した後、岡本南関東ブロック長が、学生がレベルアップするために専門学校の質の向上が必要であり、その方策として職業実践専門課程を推進する重要性を強調した。続いて、前田教授が、高等教育における学びの上で何を身に付けたかが問われていること、また、専修学校の魅力を大きく打ち出す上で専修学校全体の底上げを図る枠組みの一環としての職業実践専門課程の意義、さらに、グローバル化の中で学びの後に取得できる資格が求められていること、職業実践専門課程を通して学生に社会を見通した活躍を保証する必要性を述べた。その後、職業実践専門課程の認定要件のうち、「①教育課程編成委員会」に関しては、産業界との連携の意義や専修学校の今後の発展の展望について、「②実習・演習等」に関しては、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための企業等との密接な連携を通じたより実践的な職業教育の質の確保に向けた効果的な授業方法等について、「③教員の資質向上」に関しては、最新の実務の知識・経験を教育内容・方法に反映するために、企業等との連携の下、組織的な研修機会を確保する取組みの必要性等について、「④学校評価及び情報提供」に関しては、各学校がPDCAサイクルに基づき自己評価・学校関係者評価に取り組む意義・必要性について、それぞれの解説と意見交換が行われた。

最後に浅沼良臣埼玉県会長からの次期開催県あいさつに続き、竹井透千葉県副会長が閉会の言葉を述べて会議を閉会。

懇親会では、河上茂千葉県議会議長と赤池誠章参議院議員が駆けつけ、専修学校各種学校の振興に力を尽くしていくと決意を述べ、その後歓談となり、全日程を終了した。